

は じ め に

群馬大学共同教育学部附属小学校長 吉田秀文

昨年は Covid-19 蔓延のため、本校公開研究会は中止となりました。現在も収束の兆しが見通せず、むしろ新たな変異株ウィルスの驚異に萎縮してしまう日々が続いております。このような社会情勢を鑑みて、今年も通常での開催は断念し、オンラインを活用したハイブリッドでの形式と致しました。授業公開は事前に動画で配信し、後日授業研究会をオンラインにて実施します。変則的かつ限定的な開催となること、ご理解、ご協力下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、今年度の研究テーマは「社会に変革を起こす子どもの育成（１年次）～情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント～」と致しました。「変革を起こす」とは、OECD（経済協力開発機構）における「Education 2030 プロジェクト」で取り上げられた「変革を起こす力のあるコンピテンシー」に依拠します。そこでは、1. 新たな価値を創造する力、2. 対立やジレンマを克服する力、3. 責任ある行動をとる力、が主要な能力として掲げられ、これらの構成要素として、創造性、批判的思考力、責任感、強靱さ、協働などが示唆されています（『中等教育資料』2018年５月号より）。これら３つのコンピテンシーを現行の小学校学習指導要領における３つの柱と関連させ、教科における「主体的・対話的で深い学び」を通して 1. 学びの成果が個人から集団、社会に至り共有されること、2. 文化や伝統の価値を尊重して相互理解を図ること、3. 思考レベルに留まらず勇気を持って実行すること、以上３点に向けてより一層の推進が求められると考えます。また、これらは「SDGs 17 の目標」とも大きく関連します。国際性や多様性を重んじ、世界中の人々の幸せのために、今や各学校が世界に発信し、積極的につながる時期に来ていると思います。今年度より「一人一台タブレット」が導入されましたが、こうしたＩＣＴ機器の活用も達成に向けての一方法です。本校でも、ＩＣＴ機器を授業のほか、学校の運営や家庭連絡等の至る場面で実用を試みました。そこでの成果は、「ＩＣＴ活用実践事例集」をご参照下さいますようお願いいたします。

ところで、「社会に変革を起こす」ために、どのような資質・能力が大切でしょうか。渡辺和子氏は著書『置かれた場所で咲きなさい』の中で、「まず考え、次に感じ、その後に行動する」と言及し、「考えるということは、自分と対話をすること。自分自身に語りかけ、次の行動を決めなさい」と語られています。また、テイトとハックは『音楽教育の原理と理念』の中で、「全面的に発達した人は注意深く考え、深く感じ、広く共有し、そして賢明に人間的にかつ社会的に行動する人間には能力がある。それは、思考・感情・共有である」と述べています。ここでの「共有」とは、「共同体の中における自分の独自性を知り、共同体に対してその独自性を進んで役立たせることによって示す、人間の社会的参加を意味する」と示され、ここでも行動することの重要性が窺われます。

以上より、どのような学習場面においても、はじめに熟考し、奥深い感情を通わせて到達する共有概念、すなわち各自が担う役割に対して行動すること、これらの一貫した過程が必要と考えます。「社会に変革を起こす」ためには自己実現だけでなく、他者理解や寛容性も大切です。各教科等が公開する授業では、「社会に変革を起こす子どもの姿」の具体像を踏まえ、その実現可能性に向けての指導が展開されます。

最後に、今年も群馬県教育委員会及び市町村教育委員会の先生方をはじめ、群馬大学共同教育学部の先生方から貴重なご指導・ご助言を頂戴しました。教職員を代表致しまして厚く御礼申し上げます。また、次年度以降の研究に生かすため、皆様から忌憚のないご意見やご感想等をいただければ幸甚です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。皆様のご健勝を心よりお祈り致します。